

***講義の進め方** (基本のパターン)

- ・前回の講義の質問に対する回答
- ・イントロとしてのVTRクリップ (5~10分)
- ・VTRの内容に関する補足説明、板書による講義。標本類の回覧。要点のまとめ
- ・VTR 2 (5~10分)
- ・VTR補足解説。
- ・質問の時間。次回予告。出席カード記入時間。

基本的なマナーを守ること。(遅刻しない。携帯電話の電源オフ。etc.)

質問は歓迎する。時間中に手を挙げて質問し、講義に貢献した場合は成績評価に加える。

(講義内容の間違いを発見した場合などは、その場で指摘してくれるとありがたい。)

***出席カード (各回課題)**

毎回配布する出席カードには、各回の講義内容要約や課題回答を記入し、質問や感想を記入するスペースを用意する。課題の記述内容を4点満点で採点し成績に加える。学籍番号・氏名を自筆で記入すること。代筆は対象者・実行者双方の成績をすべて0点とする。

***ノート の 作り 方**

背綴じのノートを推奨。ルーズリーフは、バラバラになりやすいので勧めない。

各回の配布プリントに、講義の大枠と要点、参考文献を記入してある。それとは別に、ノートに板書を写し、講義者の話した内容を項目ごとにメモしながら、見やすいノートをつくることを勧める。

***学習を深めるために**

各回の講義の際に関連する分野の参考書を紹介するので、興味を持った内容については、それらを手がかりに自分で学習を進め、レポートとしてまとめることを勧める。

地学では現場の観察が重要である。後期土曜に「地学実験」を開講しており、そこで野外実習を数回、計画している。

***成績評価**

地学(2)は期末試験を実施しない。成績は、期末レポート成績50%と各回の講義で提出する課題を50%として評価する。ただし、欠席分は小レポートである程度(原則として10%まで)埋め合わせることができる。レポートは学期末にそれまでの提出分を一括して評価する。(必ずしも提出数に比例して得点は増えるとは限らない。質を評価する。)

期末レポートの提出期限は1/7とする。

***レポートの書き方**

テーマ：講義に関係した内容で、自分が興味を持ったものであれば、どの分野で書いても良い。
(講義の際に紹介する参考書も、テーマ選定のヒントになるだろう。)

①調べる

テーマを設定し、それについて調べる。単行本や論文など、文献を読む。

インターネット利用も可だが、できるだけ出版されたものを。必ず複数の情報源にあたること。

自分で実地調査したり、データを分析する作業を高く評価する。単なる受け売りは評価しない。

二次情報は、誰かによって加工された情報であることを考えると、自分の目で確かめた、

一次情報の重要性がわかる。

②考える

複数の資料を調べると、情報の不一致に出くわすことがある。その原因を自分で判断しなくてはいけない。学問は日々進展しているので、いつ、誰が書いた情報か、ということが、その情報の価値

を評価する上で大事になる。自分の頭で考えることが大事。オリジナルの考察を評価する。きちんと考えてレポートを書くなら、データとは別にその判断材料を再度探し集めることになる。

③まとめる

資料から引用した情報と、自分の調べたこと、考えたことを区別して記述し、まとめる。

引用文献、参考文献を明示すること。引用の明示は自分の責任範囲を限定することである。

本の内容の引き写し、既存の web サイト、他者のレポートの丸ごとコピーがあった場合、成績評価の対象としない。オリジナルの記述であることを諸君自身が証明できなければ得点にならない。そのために、引用文献の明示や、引用箇所の明確な処理が必要である。

レポートは講義時間前後に講師に手渡すことを基本とする。レポートの電子メールによる送付は構わないが、サーバー不調などによる不達の可能性を承知の上、念のためプリントアウトでも提出すること。また、10MB 以上のファイルサイズのメールは受け取れない可能性があるため、その点も注意すること。

web サイト 講義記録、補足情報、発展学習のために。

<http://www.h-hagiya.com/geo/>

担当教員連絡先：萩谷 宏 hiroschi.hagiya@nifty.ne.jp 070-6115-9888 h-hagiya@pdx.ne.jp
1号館4階1415研究室：内線2418 または6号館1階 化学実験準備室：内線2408

質問にはいつでも対応する。ただし他大学、出版社、放送局などに出張不在のことがあるので、訪問は電子メールで事前に連絡してほしい。

補足事項

関連する科目（後期開講） *地学(2)は火曜2限に311教室、木曜4限に21C教室、同内容。

地学実験：土曜2・3限または4・5限、萩谷・安井・加藤・犬塚・国府田担当 化学実験室

環境と社会：金曜5限、堀越、小川、萩谷、(安井) 21C教室

大学での学びについて

・講義を受けて、それだけで全部を理解するのは不可能である。大学での勉強は、自分で調べたり、勉強することが前提であり、講義はそのための手がかりやきっかけを提供するのが役目である。

みずから学ぶ姿勢という点で、レポートの作成を奨励している。地学(2)では、期末試験を行わず、期末レポートの評価を成績の50%とする。

毎回の講義で、参考書を紹介しているので、学期末までに各人が紹介された参考書のうち2、3冊は読み通していることが望ましい。また、複数の資料をあたることで、興味を持ったテーマについてレポートを作成できるはずである。

紙の上だけの勉強ではなく、現場に出て、実物をさわっての学びも重要である。博物館の見学や、野外での地形や地質の観察などのレポートを歓迎する。

どこかに書いてある正解を探して丸写しし、あるいは丸暗記して解答する、という勉強は、そろそろ卒業して欲しい。

社会に出たときに必要になる勉強は、目の前の課題に対して、自分で資料を探し、データを調べ、自分でその課題についてまとめる（レポートを書く）ことがほとんどである。課題そのものをみつけることも仕事である。誰も講義などしてくれないし、また学校に出向いて講義を受けている時間もない。レポートを書くことは、将来、諸君が実際に直面するであろう、そのような課題発見・解決の訓練にもなるだろう。また、説得力のあるレポートを書くためにどうすればいいか、この機会に試行錯誤してみたい。それが諸君の実力につながるはずである。